

# 第31回全日本大学ホッケー王座決定戦・東西交流戦

開催日時 6月17日(日)

会場 阿須運動公園ホッケー場・駿河台大学ホッケー場

天候 晴れ

## 【全試合結果】

### <阿須運動公園ホッケー場>

第1試合 10:00	女子 2回戦	早稲田大学	2	{	1 - 4 1 - 4	}	8	東海学院大学
第2試合 11:40	女子 2回戦	山梨学院大学	2	{	1 - 0 1 - 0	}	0	聖泉大学
第3試合 13:20	男子 2回戦	立命館大学	2	{	2 - 0 0 - 0	}	0	山梨学院大学
第4試合 15:00	男子 2回戦	関西学院大学	2	{	1 - 2 1 - 2	}	4	早稲田大学

### <駿河台大学ホッケー場>

第1試合 10:00	女子 2回戦	関西学院大学	0	{	0 - 3 0 - 7	}	10	天理大学
第2試合 11:40	女子 2回戦	立命館大学	1	{	1 - 1 0 - 1	}	2	駿河台大学
第3試合 13:20	男子 2回戦	東海学院大学	2	{	2 - 1 0 - 1	}	2	明治大学
			PS		3 対 4			
第4試合 15:00	男子 2回戦	慶應義塾大学	0	{	0 - 5 0 - 4	}	9	天理大学

【各試合の結果・詳細】

阿須・第1試合 女子2回戦

早稲田大学 2 { 1 - 4 } 8 東海学院大学

<得点>

早稲田 10分・#7田中 62分・#4八木澤  
東海学院 1分・#11小沢 18分・#11小沢 23分・#22森田 25分・#8日隈 38分・#10木造 48分・#7市山 58分・#22森田 69分・#7市山

<戦評>

前半開始と同時に早稲田がボールカットから一気に攻め込むが、惜しくも得点には繋がらなかった。その直後、東海学院がドリブルとパスワークを駆使して中央からカウンターを仕掛け、サークル外からの打ち込みに東海学院#11小沢が上手く反応してタッチシュートで前半1分で先制に成功した。追いつきたい早稲田は前半10分にPCを獲得すると、早稲田#6荒川が押し込み同点に追いついた。しかし、東海学院の個人技に防戦気味になり、前半18分、PCから東海学院#11小沢のプッシュシュートで勝ち越し点を挙げる。さらに東海学院は、前半23分に東海学院#22森田のタッチシュートで、前半25分にはサイドからの打ち込みにサークルトップでのミラーパスを受けた東海学院#8日隈のリバースヒットなどで追加点を挙げて、1-4で試合を折り返す。後半になっても東海学院の勢いは衰えることなく、選手交代を上手く活用していた。後半3分、浮かしたパスに東海学院#10木造が上手く合わせた。後半13分は東海学院#7市山が押し込み、後半17分は東海学院#22森田がタッチシュートで続々と追加点を挙げる。後半27分に早稲田がPCから早稲田#4八木澤のフリックシュートで1点返すが、後半34分に東海学院がPCから東海学院#7市山が上手く合わせて更に得点を重ね、2-7で東海学院が快勝してベスト4進出を決めた。

TO	竹内 芳郎	アンパイア	大西 揚士
ジャッジ	北島 学		木下 英貴

阿須・第2試合 女子2回戦

山梨学院大学 2 { 1 - 0 } 0 聖泉大学

<得点>

山梨学院 15分・#10田中 69分・#6天野  
聖泉

<戦評>

曇りがかる陽射しの元、山梨学院大学のセンターパスにより試合が開始した。序盤から山梨学院大学が持ち前の個人技と広角に使ったパスワークを駆使して試合を優位に運んで行くが、対する聖泉大学は組織的な守備からカウンターを狙って組み立てる。山梨学院が走力を活かしてプレスを仕掛けるが、聖泉大学は上手く守り切る。前半14分に山梨学院がPCを獲得したが、聖泉大学#1長友の好セーブによって得点を許さない、先の見えない試合展開になると思われた矢先に、山梨学院#10田中がFGをしっかりと決めて先制に成功する。勢いついた山梨学院は猛攻を仕掛けるが、聖泉大学は追加点を許さず、0-1で折り返す。後半になっても山梨学院が攻め続けるが、聖泉大学も防戦を強いられながらもカウンターのチャンスを伺うが、山梨学院のDFは聖泉大学にサークルへの侵入を許さない。後半69分に山梨学院がPCを獲得、それを山梨学院#6が意表を突く位置から山梨学院#6天野がキレイにタッチシュートを決めて決定的な追加点を決め、その後は得点が動くとはなく0-2で試合終了のホーンが鳴り、聖泉大学もよく防戦したが山梨学院大学が前回王者の力を見せつける結果となった。

TO	平沢 美由紀	アンパイア	山下 拓朗
ジャッジ	大野 隆司		我妻 順子

阿須・第3試合 男子2回戦

立命館大学 2 { 2 - 0 } 0 山梨学院大学

<得点>

立命館 24分・#5伊藤 28分・#9森  
山梨学院

<戦評>

会場に緊張した空気が漂う中、山梨学院大学のセンターパスにより試合が開始する。開始直後、立命館大学がボールを奪いPCを獲得する。しかし、上手く連携が噛み合わず得点することが出来ない。お互いハイスピードで攻守がめまぐるしく入れ替わり、少しのミスも許されないような緊迫して迫力のある試合運びとなる。序盤から立命館が巧みな高速ドリブルで攻め込んでPCを何度か獲得するが、GKの好セーブもあって得点を許さない。山梨学院も攻められながらも反撃をするが、立命館のDFにサークル付近で食い止められる。前半24分、立命館#5伊藤がPCで放った強烈なフリックシュートがゴール左脇を通過し、遂に均衡が破れた。さらに前半28分にもPCを獲得した立命館は、コンビネーションを上手く使い、立命館#9森のフリックシュートで追加点を挙げる。一刻も早く得点が欲しい山梨学院は攻め込みを掛けるが、立命館の人数を掛けた守備に得点を奪うことが出来ないまま前半を終了する。後半に入ると、得点が欲しい山梨学院に勢いがつき山梨学院が攻め込む場面が多くなるが、立命館も優位な分DFラインを固めて対応する。そして、一進一退のスピーディーな攻防が続いた。後半20分、山梨学院がこの日初めてのPCを獲得するが、得点には結び付かない。終盤になると、立命館が引いて守って、時間を有効に使ったパスワークを展開し刻一刻と時間が過ぎて行き、立命館大学が守りきり昨年度ベスト4同士のこの対戦カードで勝利を掴み取った。

TO	寺田 一夫	アンパイア	塚本 善士
ジャッジ	竹内 芳郎		小原 直也

阿須・第4試合 男子2回戦

関西学院大学 2 { 1 - 2 } 4 早稲田大学

<得点>

関西学院 5分・#8中島 62分・#9飯塚  
早稲田 11分・#14吉川 21分・#2田中 36分・#9鶴飼 62分・#2田中

<戦評>

午後の暑い陽射しが照りつける中で、早稲田大学のセンターパスにより試合が開始される。開始からお互いに高度なテクニックを魅せる激しい攻防が繰り広げられた。そんな中で前半2分に関西学院がPCを獲得すると、これを関西学院#8中島のフリックシュートがゴール左上の絶妙なコースに決まり先制点を挙げる。その後は、しばらく勢いのある攻防が続くが、前半11分に早稲田がボールをカットすると早稲田#14吉川のFGですぐさま同点に追いついた。そして前半21分にPCを獲得すると、早稲田#2田中のフリックがゴール右上に突き刺さり早稲田が勝ち越しに成功する。すると、早稲田が勢いにのり関西学院に焦りが出るようになると、またもや早稲田がPCを獲得し、強烈なフリックシュートは惜しくも枠を外れていった。その後は、得点が動くことなく前半が終了。後半に入ると、後半1分できなり早稲田#9鶴飼が豪快にヒットシュートを決め大きな追加点を挙げえる。後半になると早稲田に疲れが見えてきて、そこに得点が欲しい関西学院が勢いに乗ってくる。しかし、早稲田GK#1森川が好セーブを連発して得点を許さない。そんな中、後半27分に関西学院#9が放ったヒットシュートが良いコースに決まり1点差になる。尚も関西学院の猛攻は更に勢いにつき、完全に関西学院の流れになっていたが、後半34分に早稲田#2田中がPCでフリックシュートをゴール左下に決めて、これが試合を決定付ける一撃になり、早稲田大学がスコア4-2で関西学院大学を下してベスト4進出を決めた。

TO	清水 恭子	アンパイア	石橋 徹也
ジャッジ	平沢 美由紀		谷 文太郎

駿河台・第1試合 女子2回戦

関西学院大学 0 { 0 - 3 } 10 天理大学

<得点>

関西学院大学 5分・#17辻井 8分・#3早戸 17分・#13牛尾 37分・#9笠原 42分・#17辻井 46分・#12森 53分・#10遠藤  
天理大学 57分・#11伊藤 63分・#8山名 63分・#7打谷

<戦評>

大会二日目、すっかり雨もやみ、暖かい日差しが見え始めるなか、関西学院大学のセンターパスにより試合が始まった。すると天理大学は4分にPC獲得し、スイープを#17辻井がタッチで決め先制点をあげる。その後も素早いパス回しで、敵のディフェンスを翻弄すると8分には#3早戸の華麗なボディーフェイントから鋭いリバースヒットが決まり、10分までに2点のリードを奪う。さらに攻め立てる天理は12分もPCのチャンス。それを#2勝山がヒットでゴールを狙うが、ここは関西学院も集中したディフェンスでゴールを割らせない。しかし17分に再びPCを与えてしまうと、それを見事なフェイントから最後は天理の#13牛尾がヒットで決め、リードを広げる。反撃したい関西学院はドリブルを多用しながら攻めるも、なかなか前線までボールが運ばずにいると、20分にもPCを与えてしまう。このチャンスを天理の#20黒原がヒットでゴールを狙うも、ここは関西学院のGK馬場が素早い反応を見せ、簡単にはゴールを割らせない。しかしこのあとも天理がボールをキープする時間が続き、そのまま前半が終了する。後半天理がセンターパスから一気に敵の陣地に攻めよりPCを奪うと、こぼれ球を#9笠原がGKの位置を冷静に見極め、ゴールに押し込み、後半も早い時間に得点を奪う。さらにPCのリバウンドから1点を追加すると、46分には右サイドから切り込んだ#12森が豪快なリバースヒットを決め、着実に得点を重ねる。その後も素早いパス回しと華麗なドリブルを織り交ぜながら攻撃を展開し、終わってみれば後半だけで7得点。天理大学が圧倒的な力を示し、頂点への第一歩を踏み出した。

TO	野澤 光代	アンパイア	谷川 昌子
ジャッジ	鈴木 靖弘		渡邊 道彦

駿河台・第2試合 女子2回戦

立命館大学 1 { 1 - 1 } 2 駿河台大学

<得点>

立命館大学 12分・#4上田  
駿河台大学 10分・#7小杉 43分・#10大野

<戦評>

駿河台から始まった前半は10分駿河台がタッチでPCを決めるも立命館の素早い反撃を許しPCに。PSを獲得した立命館は#4上田が決め同点となる。前半30分駿河台がゴール直前までドリブルするも得点にはつながらずそのまま前半が終了。立命館のセンターパスから始まった後半8分#10大野のタッチが決まり駿河台のリードとなる。両者互角の戦いが繰り広げられたが、駿河台がリードを守り1-2で試合は終了した。関西1位の立命館を破った駿河台が準決勝に駒を進めた。

TO	駒田 文雄	アンパイア	山田 恵美
ジャッジ	馬場 治男		柳本 主貴

駿河台・第3試合 男子2回戦

東海学院大学

{ 2 - 1  
0 - 1 }  
PS 3 対 4

明治大学

<得点>

東海学院大学 27分・#11寺田 33分・#2阿南  
明治大学 7分・#23大嶋 49分・#2岡崎

<戦評>

雲空もすっかり晴れ、蒸し暑い気候のなか、東海学院のセンターパスにより試合が始まった。開始早々にいきなり両チームに得点のチャンスが到来する。5分に東海学院#8山部がバックパスをカットし、そのまま駆け上がりディフェンスを置き去りにすると、GKと一対一までもっていく。決定的な場面だったがGK飯塚の好セーブによって決めきれない。すると今度は明治のチャンス。右サイドから攻めると、最後は#23大嶋の気持ちの入ったリバースヒットを放つ。するとこちらは見事ゴールネットを揺らし、先制点をあげることに成功する。すぐに点を取り返したい東海学院は10分にPCを獲得する。そのPCを#8山部のスweepからタッチシュートを狙うも、敵のディフェンスに阻まれてしまう。さらに直後には明治の#20中道にグリーンカードが提示され、数的有利になった東海学院だったが、チャンスを生かすことができない。人数が11対11に戻ったあと先に攻めの形を作ったのは、東海学院。左サイドを突破し、PCを得ると、そのPCを#11寺田が直接フリックを突き刺し、試合を振り出しに戻す。ペースを握った東海学院は33分にもPCを獲得。すると先ほど点を取った#11寺田をおとりに、最後は#2阿南が強烈なシュートで得点をあげ、ゲームをひっくり返す。このまま東海学院の1点リードで前半を終え、明治のセンターパスから後半が始まる。

まずシュートを放ったのは、明治大学。PCから#2岡崎がワンツーからゴールを狙うが、東海学院GK千原が反応し、腕一本で止めてみせる。その直後のPCもGK千原がしっかり対応し、明治はなかなか東海学院の牙城を崩すことができない。しかし波状攻撃を続けた明治は49分にPCから、先ほどシュートを防がれていた#2岡崎が意地のゴールを決め、2-2の同点とする。ここから完全に明治ペースでゲームが進み、主に打ち込みを多用し、敵に脅威を与え続けるが、なかなか追加点をあげることができない。粘り強く守っていた東海学院だったが、61分#6川上にイエローカードが提示され、5分間の退場となる。この絶好のチャンスを決めきりたい明治だったが、ここもあと一歩決めきれない。両チーム最後まで走りぬくも、得点を奪うことができず、今大会初のSO戦となる。

両チーム二人目までしっかりと決め、むかえた三人目。明治#17山田がドリブルからゴールを決めたのに対し、東海学院#10大門はGKの右サイドから突破を図るも、スティックで止められ、3-2と明治がリードする。両チーム4人目をはずし、5人目となる。明治はこのSOを決めれば勝利だったが、決めきることができず。対する東海学院はしっかりと決め、サドンデスとなる。先行の東海学院は左サイドからドリブルを仕掛けるも、明治のGK飯塚が止め、もう一度明治が勝ち越すチャンスを得る。このチャンスを任されたのは#11辻谷。左サイドから、GKの間合いをはずし、最後はリバースで決める。この瞬間、明治の勝利が確定し、ベスト4へのステージへ駒を進めた。

TO	越湖 隆一	アンパイア	近藤 聡史
ジャッジ	野澤 光代		岩本 明大

駿河台・第4試合 男子2回戦

慶應義塾大学

0 { 0 - 5  
0 - 4 } 9

天理大学

<得点>

慶應義塾大学  
天理大学 5分・#13清水 20分・#6三谷 22分・#15吉原 28分・#15吉原 34分・#4松村 44分・#13清水 49分・#15吉原  
54分・#9落合 64分・#2大野

<戦評>

本日最終試合、慶應のセンターパスにより試合が始まる。5分に天理の#13清水がハーフラインから突破し、最後は敵を背負いながらも冷静に流し込み、先取点をあげる。その後両チームともスピード感のある攻撃を展開する。すると18分、慶應は#15谷の突破からこの試合はじめてのPCを獲得すると、#14飯高から#8松谷がタッチシュートを狙う。しかしわずかに噛み合わず得点の機会を逃すと、天理はその直後の20分に#6三谷が得点をあげ、リードを2点に広げる。さらに攻め続ける天理は22分にリバウンドを#15吉原が詰め、3点目をあげると、28分にもPCのチャンスから、#15吉原がコースを変え、さらに点差を広げる。34分には再びPCを獲得し、#4松村の素早いスweepが直接ゴールに入り、天理が前半だけで5点のリードと圧倒的な得点力を見せつける。

後半も天理のPC獲得からゲームが展開される。このPCは決めきることができないものの、44分にはPSを与えられ、これを落ち着いて#13清水が決める。なんとかして反撃したい慶應は直後にチーム二本目のPCを得る。これを#25岡田が直接狙うも、わずかに枠をとらえることができない。逆に天理は49分、#15吉原が右サイドを突破しそのまま豪快なリバースヒットをねじ込むと、その5分後に今度は#9落合が左サイドを駆け上がり、その勢いのまま同じくリバースヒットで得点をあげる。この天理のゴールラッシュを締めくくったのは、#2大野。豪快なフリックでゴールネットを揺らし、合計スコア9-0。ラストに慶應は意地を見せ、PCを獲得するも、ミスでシュートまでいけず、まもなく試合終了を告げるホーンが鳴った。

TO	馬場 治男	アンパイア	松村 満
ジャッジ	駒田 文雄		湯澤 健人

以上